

震災復興支援講演会

大震災から1年、今後の復興活動に向けて
—ハリケーンカトリーナから学んだこと—

【日時】2012年3月9日（金）14:00～16:00

【場所】尚絅学院大学 多目的ホール



講師紹介

ジャネット・ペース 氏

ルイジアナ州におけるボランティア活動、およびコミュニティー活動を統括する委員会「ルイジアナ・サーブ・コミッション」のエグゼクティブ・ディレクター。州全土におけるボランティア活動の促進や、NPO、宗教団体と行政との協働に務める。現職に就く前は、Volunteer! Baton RougeのCEO兼会長としてハリケーン・カトリーナ、並びにハリケーン・リタからの復興活動に従事し、その功績から、2005年には連邦政府のボランティア活動振興機関であるポイント・オブ・ライト財団から全米ボランティア・センター年間最優秀賞を受賞している。

テキサス州ダラスにある南メソジスト大学にてジャーナリズムと政治学を専攻。現在、地元の教育委員を務めるなど、地域社会のボランティア活動にも積極的に参加する傍ら、ルイジアナ州立大学大学院修士課程に在籍し、行政学を学んでいる。

お申し込み・お問い合わせ

参加ご希望の方は、裏面の「参加申込欄」の内容を電話、FAX、メールのいずれかの方法にてお申し込み下さい。定員200人。入場無料。先着順。お問い合わせは、尚絅学院大学総務課（平日午前9時～午後5時）。記載された個人情報は、本講演会以外の目的では利用致しません。

電話：022-381-3300

Mail：somuka@shokei.ac.jp

FAX：022-381-3325

URL：<http://www.shokei.jp/>

【主催】 尚絅学院大学
在札幌米国総領事館

【後援】 学都仙台コンソーシアム復興大学
ガリオア・フルブライト東北同窓会

講演内容

東日本大震災から1年、震災復興の課題は、被災地における社会インフラの再建や被災者支援のみならず、政治・社会・経済における構造変革と多岐にわたり、長期に及ぶ復旧・復興活動、さらには日本「再生」へ向けての取り組みはまだ始まったばかりです。アメリカでは、史上最悪の自然災害のひとつに上げられるハリケーン・カトリーナ発生から約7年が経ち、この自然災害の復興活動、そしてその後の社会変革から、アメリカはどのような教訓を得て、また日本は何を参考にすることが出来るのでしょうか。

本講演では、ハリケーン・カトリーナにて甚大な被害を受けたルイジアナ州において、ボランティア活動およびコミュニティ活動委員会「ルイジアナ・サブ・コミッション」のエグゼクティブ・ディレクターを務めるジャネット・ペース氏をお招きし、災害時や復興活動におけるソーシャルメディアを始めとするオンラインサービスの役割、教育機関と企業団体との連携、復興活動における社会企業家の役割等についてお話いただきます。東日本大震災発生後、ピーク時には延べ1万人が活動していたとされるボランティアの数が、昨年12月には1日1千人まで激減したと報道されており、ペース氏には短期的、また長期的なボランティアの調整方法についてもお話いただく予定です。



タイムスケジュール

13:30	開場
14:00~14:05	開会 開会の挨拶 尚絅学院大学 佐々木公明学長 在札幌米国総領事館 ジョン・C・テイラー領事
14:05~15:00	講演（通訳付き）
15:00~15:55	質疑応答
15:55~16:00	閉会
16:00~16:40	希望者による懇談会

参加申込欄

氏名	連絡先
居住地	名取市・仙台市・その他（ ）
所属	本学学生・本学教職員・他学学生・他学教職員・その他（ ）

申込締切 : 2012年3月2日（金）17:00